

神戸西・助け合いネットワーク

NEWS

1997. 9月号
No. 1

発行：神戸市須磨区南町1-3-15 NTT須磨別館 4F TEL078-737-0596 FAX078-737-0598

神戸西・助け合いネットワーク創立2周年！ たすけあいセンター創立1周年！

8月2日(土)感謝の集いを開催しました。参加して下さった方、関係者の方々、ボランティアさんありがとうございます！



—みなさまへ代表よりご挨拶—

『たすけあい』の社会を求めて

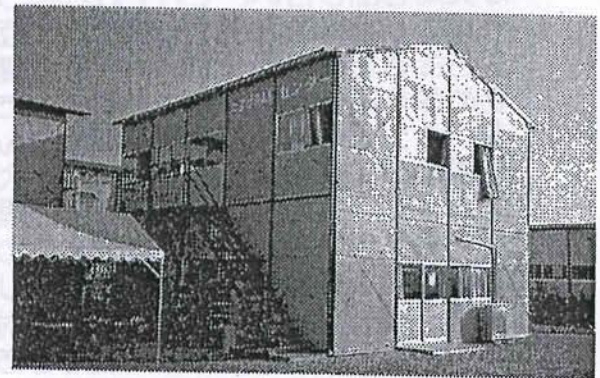
代表 在里 俊一



阪神・淡路大震災から2年半が経過し神戸の町は社会基盤の整備などハードの面はかなり復興してまいりました。しかしながら、いまだ仮設住宅では約3万世帯の人たちが暮らしています。私たちの『神戸西・助け合いネットワーク』は設立2周年を『たすけあいセンター』は設立1周年をそれぞれ迎えました。この間大変多くのボランティアや関係者の方々にご協力頂き、仮設住宅の皆さんの生活再建支援を中心に、家具のリサイクルバザー、通院・入浴ツアーなどの移送サービス、引っ越しボランティア、給食サービスと『たすけあいセンター』の活動を通してのボランティア団体に対する支援など積極的な活動を行う事が出来ました。これもひとえに、ご支援下さいました皆様のご協力の賜物と心から感謝を申し上げます。

現在、仮設住宅では被災者の方々が恒久住宅へと移っています。そして、仮設住宅はひとり暮らしの高齢者や障害者の方々の比率がますます高くなって来ました。そのため、仮設住宅の自治会やふれあいセンターの運営が大変難しくなると共に、空き部屋が多くなり防犯上の新たな問題も起こって来ました。このように、ひとり暮らしの高齢者や障害者、病弱な方々など自立したくてもなかなか困難な人へのケアと共に、自治会の活動やふれあいセンターの運営支援などボランティアに対する期待も大きい状況であります。

私たちは、積極的なボランティア活動を通して、仮設住宅の方々の生活支援と新しい地域コミュニティづくりに取り組みたいと思っています。そして、震災で得た貴重な教訓と共にボランティア組織の大切さや運営の仕組みを全国の人達に伝え、少子・高齢化社会を迎えている我が国の21世紀が、誰もが安心して暮らせる社会、人々が共に助け合い、励まし合い、支えあう社会を目指して活動して行きたいと思えます。



たすけあいセンター

CONTENTS

代表挨拶・・・・・・・・・・P1
特集たすけあいセンターとは？・・P3~7
WELCOME・・・・・・・・・・P8~9
ボランティア募集・関係団体一覧・・P11

メッセージ(知事・市長)・・・・・・・・P2
神戸西・助け合いネットワーク
南部事務所近景・・・・・・・・P10
編集後記・・・・・・・・・・P12

MESSAGE



兵庫県知事 貝原俊民

こころ豊かな兵庫の実現をめざして

「平成7年1月17日、午前5時46分」
—私たちは、阪神・淡路大震災を決して
忘れることはありません。

あの日から、震災復興への懸命な努力を
続けてまいりましたが、いま、社会基盤
の整備や恒久住宅の建設も進み、ふるさと
兵庫は不死鳥のごとく蘇りつつありま
す。しかし、今回の震災は、高齢社会下
における未曾有の大都市災害であっただ
けに、とりわけ高齢者を中心に「自力復
興」は極めて困難な状況にあり、公的支
援にも限りがあります。これらを乗り越
えていくには、県民や団体、企業、行政
が英知を出し合い、それぞれが持つ経験
や技術、行動力を生かしながら、互いに
足らざるを補いあっていく「協力復興」
をめざすことが必要です。幸い、たすけ
あいセンターをはじめ多くの皆さんによ
る温かい支援の輪が被災地内外で大きく
広がっていることは、誠に心強い限りで
す。県としても、こうした皆さんの活動
を積極的に支援することはもとより、個
別化、多様化する諸課題に的確に対応し
つつ、被災者の生活再建に全力をあげて
まいりる決意です。みんなで力をあわせて
生活復興を進め、だれもが安心して暮ら
せる“こころ豊かな兵庫”の実現をめざ
してまいりましょう。

(感謝の集い当日頂いたメッセージより)



神戸市長 笹山幸俊

協働の精神にのっとり全力で!

震災の発生から、2年6ヶ月を迎えます。
この間、復興計画に基づく種々の施策を
推進してまいりました。

道路・港湾、そして住宅建設などハード
面では、「順調に復興がすすんでいる」
と申し上げてよいと思います。仮設住宅
にお住いの世帯も、市内で2万世帯を下
回り、恒久住宅への移行も順調に進んで
おります。しかしその一方で、被災中小
企業や商店街・市場の問題など、人口の
回復の問題とあいまって「順調な復興が
難しい」と言わざるを得ない面もありま
す。

また、公的支援の拡充を望む被災者の声
は根強く、その声には是非応えていきたく
と考えています。被災10市10町で提
案している「総合的国民安心システム」
の実現に全力をあげるとともに、復興基
金を効果的に活用していきたく考えて
います。

振り返りますと、震災からの2年半は長
いようで短かったと思います。今後も協
働の精神にのっとり力強い復興を目指
して取り組んでまいりますが、市民のみな
さんにもできるだけ元気を出してもらえ
るよう、全力をあげてまいります。

(感謝の集い当日は、お祝い電報ありがとうございました。)

特集

たすけあいセンターとは？ 5つの事業を柱に、活動するボランティア組織です！

ワーカーの皆さんの声！
こんな“こころ”が支えています。

1995年7月、神戸西・助け合いネットワークを設立し、震災支援ボランティア団体として活動を開始しました。多数の団体・個人とかがわるうちに各団体の主体性を尊重しながら、それぞれの特性や多様な活動展開を有機的に結びつければ、より大きな効果を発揮できると考え1996年7月「たすけあいセンター」を設立。現在、地域におけるニーズの需給調整をより広い範囲と選択肢をもって行うことが可能となり、積極的に団体と団体、行政と団体、企業と団体などの各主体間をコーディネートする中間的（インキュベート）役割を担っています。

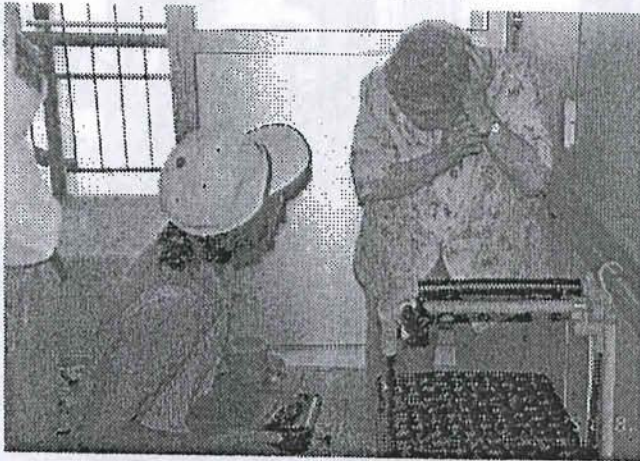
特に企業等からの体験ボランティアが活発で、20～30名はいつでも受け入れ可能ですので一度覗いて見て下さい。

たすけあいセンター事業構想概略

わが国の最大課題である高齢化社会、とりわけ在宅介護の問題は深刻です。この1年被災地（仮設住宅入居者支援）で培ってきた方策を、地域コミュニティに取り込むことによって、その解決策を見いだそうとする当事業は少なからず今後の国民生活になんらかの影響を与えることができると確信しています。

1. 配食サービス/在宅介護と地域コミュニティを繋ぐインキュベート事業

在宅介護での基本的な問題として、確実な栄養摂取と寝たきりにさせない環境づくりが必要と思われます。地域コミュニティとの接点を配食サービスにより確保し、ボランティアの訪問により健康状態の確認や新たな介護ニーズの抽出が容易となります。在宅介護が抱える問題を早期に洗い出し、その解決策を探ります。課題の多い事業です。



おはよう！配食サービスは当然休みなし

○-学ぶことの多かった1年間-

三輪 富喜子

最近の少し寂しい話ですが遠方に住んでいる私の友人が電話で「まだしているの？ボランティアもいいけれど・・・」と少し毒を含んだ言い方をしました。友人は震災にあっていない。たすけあいセンターは、仮設支援のボランティアですが良き仲間たちと共に仮設訪問、イベント等々のなかで多数の仮設住民に会い、いろいろな意味で私自身学ぶことの多かった一年間でした。宅配給食で「ありがとう」と笑顔で受け取ってくれる〇〇さん、明日もお弁当届けますね。



○-被災された方々の笑顔をバネに-

秀野 貴子

私は、昨年9月からたすけあいセンターでボランティアに参加させてもらい10ヶ月がたちました。何もわからず参加した活動の中でたくさんの事を学び、勉強させて頂きました。小さな力ではありますが、被災者の方々の笑顔をバネに無力な力を、たくさんのボランティアの手と手を合わせ、大きな力とし、これからも頑張って活動していきます。

2. 移送サービス/地域コミュニティ参加促進のインキュベート事業

要介護者をつくらないために外出の機会を積極的に提供します。通院介助にとどまらず地域行事への参加を促進し、孤立感や疎外感を解消することに努めます。

〇ー1周年に当たり思う事ー

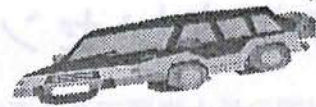
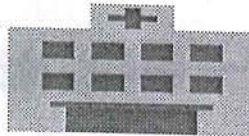
里村吉康

ある日の昼過ぎの事「主人が三宮の病院で危篤状態ですので急いで行って欲しい」と仮設住宅の奥さんが顔色を変えて言うて来た！昼食など後回しで大急ぎで病院に行った、12時35分頃に着いてやっと臨終に間に合ったが45分に永眠となる。毎週火・金曜日の朝、70才前後の方々を仮設住宅から名谷駅まで車で送っています。それぞれの病院に行く為です。弁当配達の為仮設住宅を回ると、ほとんどの方が70才前後の独身男性で床に入ったままの方もおり配達に行っても弁当を取りに来れない方もいます。又声が無い時等はひよっとしたらと思いき家の裏に回って見に行ったら事も何回かありました。私も、58才時腰痛が原因で胃潰瘍になり約3ヶ月間入院生活して三途の川を渡りかけ、今も腰痛等の病気持ちで重労働は出来ず皆さんに迷惑を掛けています。

以上のような事で健康で生きられる事のありがたみが良く分かります。自分のできる範囲内で他人のお世話が出来る事は他人のお世話になるよりありがたいですね。

また30数年の友達二人が同じグループで

模範的に活動をされている事も力強く感じています。又ボランティアの仲間にはいろいろと教えて頂く事ばかりで感謝しています。有り難う、ありがとう、アリガトウ！



マイクロバスによるミニ温泉ツアー



移送サービス 足もとにきをつけて！

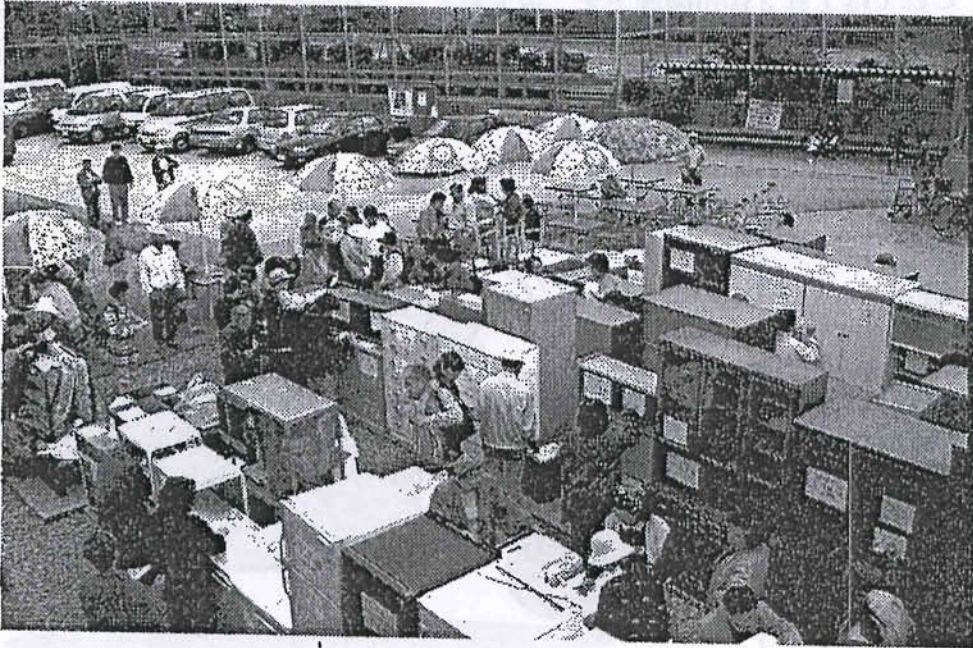
〇ーボランティアに参加してー

湯口信男

大震災で多くの方が今なお仮設生活を余儀なくされておられますが私も被災者の一人です。当時職場が六甲アイランドにあり通勤が思うようにならず又年齢の関係もあって退職しました。同じ会社を同時に退職された友人の里村さんからボランティアのお誘いを受けていましたが自治会長をしていた私には、思うように参加できませんでした。やっと今年の三月会長交替ができましたので時間の許す限り参加したいと思っている今日この頃であります。

3. リサイクル/特技や趣味などを地域社会に還元させるインキュベート事業

ボランティア活動を通じて、互いの特技の提供により生涯学習の一環を担います。趣味を退職後の軽収入に生かせるなら、まさに生きがいにつながります。会社社会での交友関係以外の生きがいを通じた友人づくりができ、新しい社会での助け合う生き方に寄与します。



リサイクル家具バザー全景

毎回100～150点の家電・家具類を出品しています。

毎月1回は、必ず開催し被災された方々に買い物の楽しみとパラソルでのお茶会によるコミュニケーションの場を提供しています。

当初、仮設住宅に合った小型の家具が人気でした。最近では恒久住宅への転居を意識されているのか、少し大きめの家具に申し込みが殺到します。

〇ボランティアに生きがいを一
津高 寅松

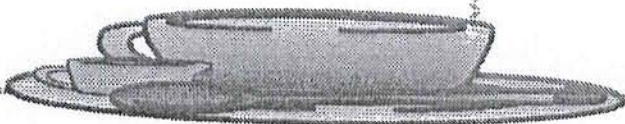
私は、たすけあいセンターのボランティア募集をみてきました。

早いもので二ヶ月半になります。はじめのうちは慣れないので、体がつづくかなあと思いましたが、一ヶ月程してからみなさんと一緒にワークができるようになりました。お陰様で体も健康になりました。毎日ボランティアに行ってお話を聞いて仕事をするのが楽しいです。仮設のみなさんも元気を取り戻して生活をしてられます。バザーの時には、楽しそうな声が聞こえてきます。三時の休憩の時には、みんなとお話をして楽しいです。



家具バザー当日、地元テレビ局（サンTV）の西条遊児キャスターに取材を受ける在里代表。

（堂々とテレながらこなしてました!）



4. 引っ越しサービス/仮設住宅から恒久住宅へのスムーズな移行を支援

1997. 9月 約15,000戸の災害復興住宅が供給されます。兵庫県は、一元募集は実質的にこれが最後である。と言っています。その後は、個別対応してゆくとのこと。今回は、過去最高の募集であり、引っ越しが短期に集中することが予想されます。私達は、これに備え現在でも週2~3回行っている引っ越しサービスを更に強化してゆくつもりです。具体的には、まず車両の確保。トラック1台を保有していますが、これでは1日2件が限度です。何とかもう1台確保したいと思います。それに伴う維持費についても趣旨をご理解頂き寄付や助成金を募っていきたいと思います。是非ご協力下さい。人員の確保については、全電通さんやダイエーヤングリーダーの方々などに定期的にご協力頂いており、誠に感謝しております。しかしながら、慢性的なワーカー不足の解消には至っておらずボランティア休暇の利用受入れを積極的にアピールしていきます。

○メンバーの一人としてー

遠 周 孝 一

悪夢のような阪神・淡路大震災で家屋は全壊し、私たち夫婦は神戸市立長田工業高校に避難し180度の暗転生活を余儀なく過ごすことになりました。自衛隊の活躍始め各地からボランティアの方々が集まり炊き出し、物資の配給、家屋解体の援助等に数多く、私たちがお世話になっていた避難所にも全国から医療団が交替で来られ、二十四時間体制で健康管理にご盡力くださいました。

ボランティアの方々の温かいお心の深さに唯々感謝すると共に私も気持ちが落ち着けば何か少しでも皆様のお役に立ちたいと心に決めておりました。丁度仮設住宅に移り在里俊一氏とお出逢い出来ました。色々お話をしているうちに代表のお人柄とご趣旨に賛同致しました。微力乍らたすけあいセンターのメンバーの一員として日々色々な活動に参加させていただいております。

仮設住宅の皆様が一日も早く恒久住宅へ移転できることを心から祈っている毎日です。皆様のご支援、ご協力お願い申し上げます。



忙しすぎて、だれも撮影する暇がないそうです・・・

○たすけあいセンターに参加してー

大 西

たすけあいセンター一周年おめでとう御座います。私自身も震災で住んでいたマンションが全壊となり、学校での避難生活そして二年余月仮設住宅で生活してまいりましたが、その間全国のボランティアの方々に大変お世話になりました。その好意に対しいつかは、お返しをと思っていた所、私の居た仮設に在里代表とセンターの皆様が慰問に来られ代表と色々とお話しをさせていただき、私も活動に参加させて頂き六ヶ月が過ぎました。非力でこれといった特技も無い私ですが、これからも皆様のお役に立ちたいと思っていますので皆様のご助言、ご指導のほど宜しくお願いいたします。



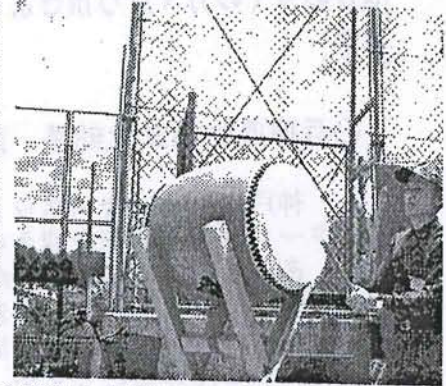
5. イベント主催協力事業／参加者全員が作り手であり担い手であるイベントの創造・実施

復興鯉のぼり祭りをはじめ、地域に密着したイベントを企画し準備段階から、多くの人に声をかけ裏方の楽しさも知ってもらい、地域の構成員として充実した活動への参加機会を提供しています。

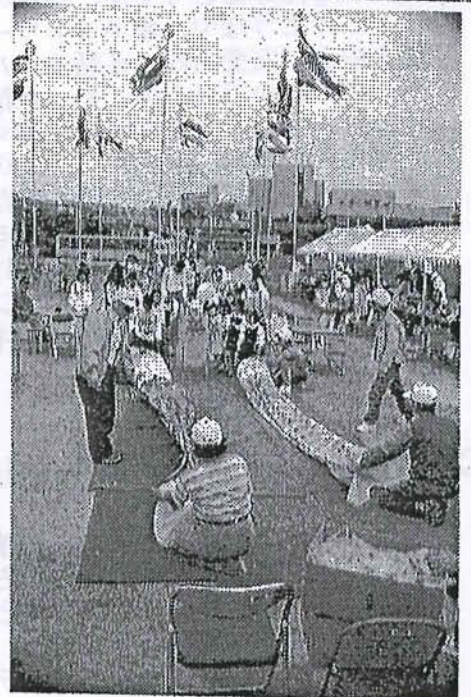
○小さな温もりをー

牛房操

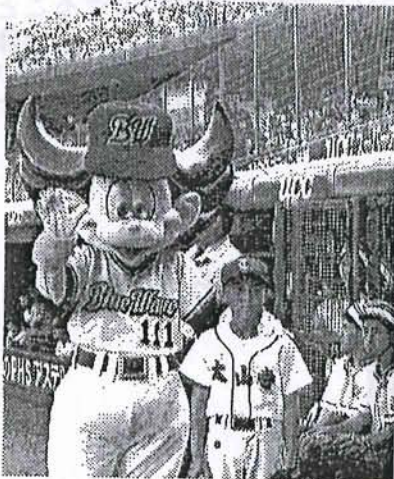
年輪を重ねる度に樹木は成熟しやがて大木となる。「たすけあいセンター」は、ここに一周年を迎え心温まるボランティア・グループが着実に地域に根ざした活動を進めて来られた事に対し敬意とお祝いを申し上げます。同時に日も浅いですが私もこのメンバーに加えて頂いたこと（H8. 12. 20より）に大きな誇りを感じている一人です。元気な中に小さなお手伝いが出来その事に、温もりを感じて頂ければ・・・そう思いつつ明日も頑張ります。たすけあいセンターの皆様よろしく。



復興！鯉のぼり祭り 来場者約1,500人
昨年に続いて2回目の開催となりました。



子どもたちに大人気の鯉のぼりくぐり 歓声が聞こえてきそう？
鯉のぼりも応援していました。



始球式直前のカット

たすけあいセンターとジャスコさんによる「花火ナイター」仮設住宅の方を200組400名招待しました。この行事も2年続けて行えました。

仮設住宅にお住まいの児童に始球式をお願い！

一生の思い出となったことでしょう。

他のイベントも今後紹介してゆきます！

お楽しみに！！

WELCOME

たすけあいセンター1周年・神戸西・助け合いネットワーク2周年によせるメッセージを知事さんをはじめ多くの方々から頂きました。誠にありがとうございます。その一部をここに掲載させていただきます。

○兵庫県生活文化部長 武田 政 義

神戸西・助け合いネットワークにおかれましては、このたび活動2周年、そして「たすけあいセンター」開設1周年を迎えられましたことに、衷心よりお祝い申し上げます。

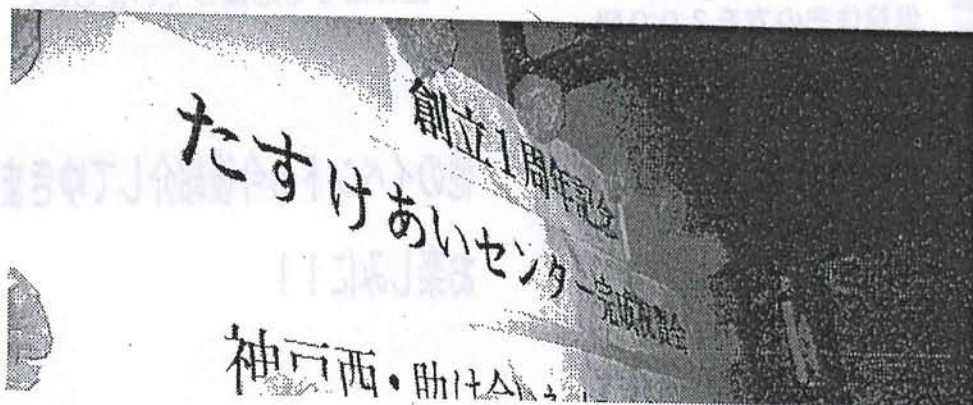
あの阪神・淡路大震災から2年6ヶ月が過ぎました。被災地では今、社会基盤の整備や恒久住宅の建設が着実に進んでおりますが、一方で、時間の経過とともに、被災者の生活再建をめぐる問題が多様化・個別化してきています。このような問題を解決していくためには、行政によるきめ細かな支援はもちろんのことですが、県民の皆さんが互いに手を携え、助け合っていくことが特に必要であります。このような中、貴ネットワークにおかれましては“自立への支援”を活動の基本に据え、仮設住宅を中心に友愛訪問、茶話やかパラソル、移送サービスなど様々な支援活動を続けてこられました。そのきめ細かで真心のこもった活動は、被災された方々をどれほど勇気づけ、心の支えとなっていることでしょう。会員の皆様に深く敬意を表しますとともに、心から厚くお礼申し上げます。

復興への道筋はなお厳しいものがありますが、行政、県民、企業、団体などが共に英知を出し合い、それぞれの経験や技術、行動力などを生かしながら、成熟社会にふさわしい創造的復興を進め、一人ひとりが生きる喜びを実感できる社会を築いていこうではありませんか。

今後とも、共に支え合い、助け合う社会の創造をめざし、創意工夫に満ちた先駆的な取り組みを展開していただくとともに、ボランティアの輪が地域社会により一層広がっていくことを念願しております。最後になりましたが、貴ネットワークのより一層のご発展と会員の皆様のご健勝を心から祈念申し上げます。

○須磨区ボランティアセンター所長 河合 靖 代

もう2年になるんですね。須磨区ボランティアセンターもほぼ同じ時期（H7.6.1）に開設しました。活動内容は違いますが、自分たちにできることは何かと試行錯誤をしてきた点は同じだと思います。災害ボランティアは炊き出しなどの緊急支援から、時間の経過とともに支援の形を変えてきました。ボランティア活動はその自発性、自由性から様々なアイデアで時々に応じた先駆的活動ができることが特徴です。市民・連合ボランティアネットワークの解散により、今後は独立したボランティア団体として被災者支援だけでなく、より地域に根ざした活動を目指されることと思います。柔軟さをパワーに、時には行政や社会に問題提起を行う、良きパートナーとして活躍されることを期待しています。



あれから、はや1年！

○阪神・淡路コミュニティ基金 プログラムオフィサー 市村 浩一郎

「たすけあいセンター」開設一周年、誠におめでとうございます。阪神・淡路コミュニティ基金は、民間公益活動の基礎整備をその主眼としており「たすけあいセンター」は神戸市西部におけるその担い手として、おおいに期待を申し上げ、かつ、一助となるよう財政面で支援をさせていただいておるところです。運営面や地域の事情などから、ご苦勞も多いかと存じておりますが、着実な歩みを続けられ、地域における民間公益活動の支援センターとしての機能をいかに発揮されることを待望しております。また、地域の皆様には「たすけあいセンター」を地域の財産として大切にさせていただき、その発展のためご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

○全労済近畿兵庫県本部 理事長 内野 貞夫
-「たすけあいセンター」設立一周年にあたって-

「たすけあいセンター」のみなさん、設立一周年を迎えられたこと、心よりお祝い申し上げます。あの未曾有の大震災より概に2年半という月日が流れ、今や街を眺めても表面的にはその名残すら感じさせないように見えます。が、依然として仮設住宅は消失してはならず、まだまだ真の復興にはほど遠いように思われます。そのような状況の中、みなさんの活動が如何に多くの人々を勇気づけ、支えとなっているかは想像に難くありません。そのみなさんの活動の一助となれたことは、私共全労済にとっても誠に喜ばしいことと思っております。今後もみなさんの活動が益々発展されますことを心より祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。

○仮設下中島住宅(地域型) 福祉相談員 柴尾 亨

あのいまわしい阪神・淡路大震災からはや二年半が過ぎようとしています。その間、ボランティア団体が数多くできたことが今回の地震のプラス面である。そしてボランティア活動は、生活救援活動期から生活復興支援期に移った。仮設住宅住民の生活サポートのうち、たすけあいセンターのされているリサイクル家具バザー、配食サービス、その他のイベント(復興まつり等)はまさに復興支援に不可欠な物心両面にわたるボランティア活動であると思えます。皆さんの御苦勞に敬意を表すると共に今後のより一層の御活躍を期待します。

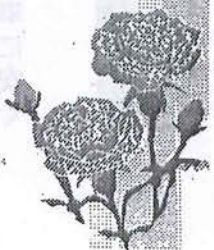
○仮設東須磨住宅(地域型) 福祉相談員 高田 比呂子
-ボランティア活動に思うこと-

ボランティア活動を行う方の動機はどのようなものだろうか、考察してみると次のようなことが挙げられる。趣味、興味、関心、探求心、社会参加、自己誇示による満足感、やらなければいけない概念、かわいそうだからやってあげるといった慈愛的感情、心を揺り動かす何かが情熱をかき立てる、自己実現、アイデンティティの確立を目指す等、以上のような動機のほかにも千差万別一人一人の意識があると思う。ボランティア活動を受ける側の方々は、どのように感じとっているだろうか。確かに困っている時に助けられたという記憶は生涯忘れ得ることができない出来事であろう。しかし、与える側の情熱や思いが与えられる側にうまく伝わった場合に起こる心情ともいえる。与える側も与えられる側も立場上平等であり、かつ互いに心が癒され充実感がみなぎるような活動であれば、人生において意義あるものとなり、楽しみながら活動できるのではないかと私は思う。

○-生きているからこそ 咲く花- 坂本 高

今日は、〇〇仮設へ行く。花が沢山咲いている。仮設住宅の軒下。狭い通路の両側。わずかな空き地にも花が植えてある。お年寄りが3人5人と集って手入れをしている。会話が弾んでいる。笑顔が見える。私も花が大好きだ。ボランティアの一員として自分でできること、鋏を修理したり草刈鎌を研いだりして「ふれあい」を実感している仮設には高齢者が多い。障害者もいる。不自由な生活の中で、老妻老夫助け合いありあって遅くも生きています。手入れした花が色鮮やかに咲いている。息をしている。

「生きているからこそ!! 咲く花」私はこの言葉が好きだ



神戸西・助け合いネットワーク南部事務所近景

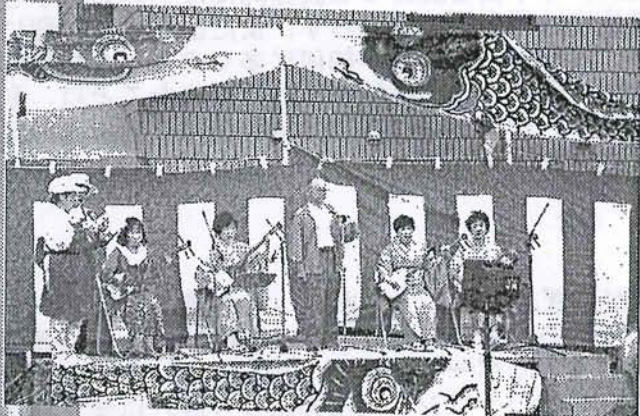
○「一緒に歌いましょう」

山中 愛子

最近、いくつかの仮設で「一緒に歌いましょう」と題して古い歌、新しい歌を織りまぜて合唱する機会が増えた。初めは皆んな小さな声しか聞こえなかったけど今では少しずつ大きな声が出る様になり、予定していた日が都合で出来なくなったりすると「今日はしないので、さびしいナ」と云う人もあって楽しみにして頂ける程になりました。リクエストがあったりして、民謡も含めてにぎやかなひとときが私達の楽しみにもなっています。



桜木仮設 人形劇の会
(兵庫県こどもの館と共催)



熱唱！鯉のぼり祭り

○エプロンに名札でー

池上 美佐子

正月明けのある日、久しぶりに友人に出会った「ぜんざい煮るんだけれど手伝いにきて」って声を掛けられた。「ちょうど空いてるから行くわ」って気軽についていった。まだほんの半年前の事なのです。赤いエプロンに名札。これを信用して下さって心良く接して頂けるのです。いつも、これがボランティアなの？と思いながらこんな事でもいいの？と問いながら動いている私です。でもこんな簡単な事だから私にも出来るのですが・・・。

○細くとも長く続けるー

涌元 恵美子

震災を期に、ボランティアの仲間に入れて頂いて、最初は東灘の方で少しの間活動し、神戸西・助け合いネットワークが結成されて間もなくこちらの方でお世話になるようになりましたが、それがつい昨日の事のように感じられます。代表の在里さんはじめ仲間の人達の優しさ・温かさにふれ又訪問先の仮設住宅の入居者の方々とふれあい等助け合う心の大切さを学ぶことが出来ました。今後も小さな事しか出来ませんが細くとも長く続けられる様心がけて行きたいと思っております。宜しくお願い致します。ありがとうございました。



移送サービス中のワゴン車
福祉車両軽自動車の確保が今後の課題

○安全に移送がモットーですー

後藤 三郎

震災の年の5月より、ボランティア活動の一員として、車での移送サービスに参加した。車椅子使用者の「リハビリ」、その後 下中島・東須磨仮設等から病院への送迎担当で、特に車の安全運転を心がけ、車の乗り降りの時には体を支え怪我の無いよう十分に気を配り安全に移送し、その送迎の間、心に痛手を受けられ、苦しい生活を乗り越えて、一日も早く立ち直って、以前の生活が出来るよう「ふれあい喫茶」の手伝い等で頑張っています。

市民・連合ボランティアネットワークの時からなにかとお世話になりっぱなしの連合兵庫川本事務局長。

感謝祭にも、駆けつけてくださり今後も、今まで以上にご支援・ご協力頂ける旨のごあいさつを頂き心強く思いました。現在、原稿依頼中です。



連合兵庫 川本事務局長

ボランティアさん募集中!

読んで下さい、きっとあなたの協力が必要なワークがあります。

- ・ 仮設住宅等の巡回訪問 (様子伺い、話相手)
- ・ ふれあいセンター運営支援活動 (ふれあい喫茶、催し等)
- ・ ミニバザー (家庭に眠っている日用品を提供して下さる方! TEL下さい)
- ・ 茶話やかパラソル (移動ミニ集会所)
- ・ 移送サービス (運転、付き添い等)
- ・ シーツ洗い隊 (洗い立てのシーツで寝てもらいたい!)
- ・ つくろいサービス (簡単なほころび、ボタン付け)
- ・ 心の旅 (今、気になるところ・元いた場所を一緒に見にいけます。)
- ・ リサイクル家具バザー (日曜大工得意な方、やってみたい方歓迎!)
- ・ 給食サービス (命をつなぐ、毎日届けることが重要です。)
- ・ 引っ越しサービス (簡単な荷造り等手伝い)
- ・ その他イベント (復興鯉のぼり祭り等)
- ・ あなたのやってみたいこと!

主な活動協力団体一覧

市民・連合たすけあいネットワーク
東灘・地域助け合いネットワーク
神戸・中央助け合いネットワーク
わくわく神戸
西宮・地域助け合いネットワーク
コミュニティ・サポートセンター神戸
マイム・マイム
寿ボランティアグループ
グループあすなる
グループ・アイ
ゆいまーる神戸
北須磨ボランティア
週末ボランティア
秋田蓼食う虫の会
別府大学附属高校生物部

ダイエー・ヤング・リーダーズ
全電通群馬・全電通岐阜・全電通兵庫
連合東京ボランティアサポートチーム
ドゥー・コープ埼玉
全労済
その他多数の団体よりご支援・ご協力頂いています。
誠にありがとうございます。

Thanks

今年度活動助成元団体一覧 (1997. 9. 1 現在)
・ 阪神・淡路コミュニティ基金 (たすけあいセンター運営事業)
・ 日本財団 (南部事務所運営事業)
・ 生活復興県民ネット (マイクロバス運営事業)

○今やライフワーク 中泉 宏

ポスター作り、イベントでの写真撮影など「神戸西・助け合いネットワーク」の広報を手伝っています。それぞれのワークで活動するものを表とするなら、私は裏方です。でも、しんどいと思ったことは、全然ない。フェンダー越しに見えるみなさんの笑顔が苦労を忘れさせてくれるのです。今や、ライフワークとなったボランティア活動。これからは、自分の友達にも呼びかけて、引っ張り込んでみたいですね。

編集後記

ある日突然、震災はやってきました。当時日本社会はリストラの嵐の真っ最中でした。そして私達は、それより以前にいわゆる社会的弱者をリストラしていたのかもしれない。震災はその事を気づかせてくれました。

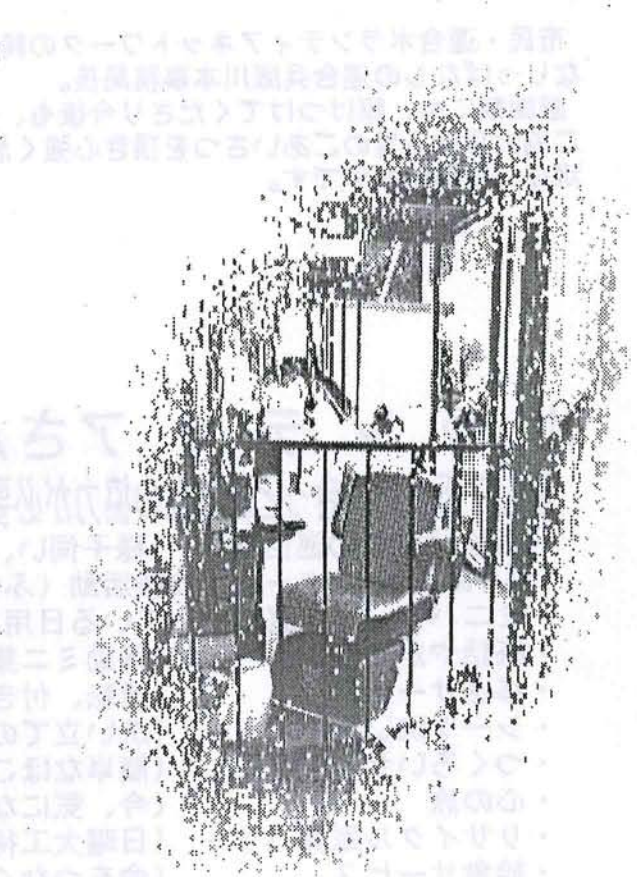
人間本来が持つ「助け合いの心」が被災地を支えようと頑張りました。

そんな中で、神戸西・助け合いネットワークは誕生しました。(1995. 7)

仮設住宅の日常生活支援活動の中で、様々な問題にぶつかるうちに、いろいろな力をまとめ地域社会に提供できる社会システムの必要性を代表在里俊一は感じていました。

1996. 2「たすけあいセンター」設立案を手にした代表は、半年も経たない1996. 7 同センターを開所してしまいました。

残る課題は、資金だそうです。しかしながら、この事業は、日本の社会システムを変革し全国に影響を与えることができるので「やらにゃ〜、あかん！」そうです。地域型仮設住宅にぽつんとある電動式車椅子もその行方をそっと見守っているようです。



神戸西・助け合いネットワークでは、より広域的な活動を展開するために、下記2ヶ所の事務所において活動しています。ぜひ一度お立ち寄りください。

〒654-01 神戸市須磨区西落合7丁目名谷公園内 「たすけあいセンター」

☆神戸西・助け合いネットワーク「名谷事務所」

事務所開所日時 毎日 9:30~17:00
TEL 078-795-3786
FAX 078-795-4498

〒654 神戸市須磨区南町1-3-15 NTT神戸支店須磨別館 4F

☆神戸西・助け合いネットワーク「南部事務所」

事務所開所日時 月~金 9:30~16:00
TEL 078-737-0596
FAX 078-737-0598

みんなで支えよう！復興支援・地域コミュニティー
<活動資金のカンパをお願いしています。>

振込先 さくら銀行 須磨支店 普通 3593458

口座名義 神戸西・助け合いネットワーク 代表 在里俊一